

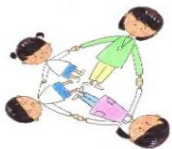


乳幼児教育・保育推進事業 通信  
 ～令和7年度 乳幼児教育・保育協働研修～



令和8年2月16日(月) 第22回研修会(保幼小連携)を開催しました。

51名の先生方と一緒に学び合いました。  
 (保育所(園)9名、幼稚園7名、認定こども園15名、小学校20名)



テーマ  
 架け橋ブロック取組実践を通して学び合う

1. グループワーク・発表  
 各ブロックでの交流事業の中から、紹介したい取組内容の写真を持ち寄り、ブロックごとに作成および発表
2. 講評・講演  
 京都府幼児教育センター スーパーバイザー  
 京都教育大学 教育学部 幼児教育科 教授 古賀 松香 先生

グループワーク



グループ発表



講評・講演





各ブロック取組発表・南部小学校の校内に広めるための取組発表について、心に残ったことを一つ記載してください。

#### 【就学前施設より】

- ・小学校教員が園に参観に来られたこと
- ・それぞれの施設が普段取り組んでいることをベースに無理なく計画して行うこと、また、課題や反省を次の活動へと生かし、継続することの大切さ
- ・「流れる水」における幼児教育との連続性の大切さを学びました。感じたことを伝える観点も重要だと思います。
- ・遊びや生活の写真を用いながら就学前施設と小学校でつながりを考え合う方法は実践してみたいと思いました。
- ・学校全体で取り組もうとされているところが素敵だと思いました。学校の先生が幼少期のあそびが基盤となっていると気づいていただいたところが心に残りました。

#### 【小学校より】

- ・どのブロックも園の子たちが安心して小学校に入学できるように様々な取組をしているとわかった。
- ・宇治小ブロックの新たな取組に興味がある。日頃の子どもの様子(写真)を交流しながら考えていくことはとても重要だと思った。
- ・架け橋ブロックの取組として1年生がするものと思っていましたが、5年生と交流することで1・6ペアの交流になることはとても安心につながると思いました。
- ・幼児教育の大切さを各学年の学習とのつながる部分のわかりやすく提示されていて学ばせてもらいました。 ☆イメージマップ
- ・ござの活用を含めた環境整備については本校でも広めていきたい。(取り入れていきたい)



講師の先生のお話の中で心に残ったことを一つ記載してください。

#### 【就学前施設より】

- ・好きを育み得意を伸ばす まさに、今目指したい子どもの姿だと思いました。
- ・垣根を越えて共に考えていくことの大切さ「子どもが明日学校へ行くのが楽しみになるように」
- ・「チームを孤立させない」その通りだと思いました。異動など関係なく、学校・園全体で取り組んでいくべきだと思います。
- ・交流からの学びを明確にすること。交流での経験をどう生かしていくのかの大切さを学びました。
- ・「専門性の越境」対話で風穴を開ける。

#### 【小学校より】

- ・境界の風穴を開ける。そこからつながりを創る。大人も幼小の境界を越えられるように。
- ・幼児教育での学びを小学校での学習でどのように活かしていけるか。
- ・遊びの中にある学びをどう生かし、何が学び得られたのか授業者が探求していくことが大事
- ・次の学習指導要領の大きな目標である「好きを育み 得意を伸ばす」・「当事者意識を持って自分の意見を形成し対話と合意ができる。
- ・子どもの長期的発達をつなぐための専門性の越境とそれぞれの教育の質向上へ同じ目標に向かって進んでいこうということ。対話を重ねるうちに互いが見えるようになる。
- ・「楽しかった」で終わるのではなく、少なくとも教員・保育者側はそこにどんな学びがあるのか、どんな力をつけたいか、見通しを持つだけでも言葉かけや指示が変わってくると思った。

## 就学前施設より

小学校の学習のつながりを考えながら園でたくさんを経験させてあげたいと思いました。

大人もワクワクしながら子どもの姿を共有し、子どもの学びを見取り、対話を通して全職員で共通理解をし、次へのエネルギーにつなげたい。

地域の保育園同士のつながり、交流(遊びの交流)を深めるようにしていきたいと思います。

日頃の遊びの1つ1つに子どもたちの気づきと学びがある。それを保育士1人1人が考えることでより質の高い保育になると思いました。

子どもの好きを育み得意を伸ばす。当たり前のことではあるが、これからは子どもの気持ちに寄り添って保育していきたい。

## 保育や授業で活かしたいこと



まず大人が対話をして風穴をあけ、つながりをつくっていききたい。

## 小学校より

保幼小、それぞれの子どもの姿を知り、共通の育てたい子ども像を探り日々の教育活動に向き合いたい。

内容のつながりを意識した交流保育・授業の計画を立てていきたい。

無理せず持続可能なことを長く続けていくこと

シンプルに「子どもが明日学校へ行くのが楽しみになるように」を考えて実践する。

様々な学校の取組が知れて良かった。給食交流をしてみたいと思った。

小学校の児童にも園児にも必然のある場にする。なんとなくではもったいない。